

飛べない鳥たちよ、

作 竹野 弘識

藤宮 航……東京で舞台を中心に活動している役者。母校へ訪れる。

キック（菊地 裕馬）……明飛中学校三年。男子バレーボール部部长。キヤプテン。

シュン（早乙女 駿）……明飛中学校三年。男子バレーボール部副部长。

ベッキー（長宗我部 清志）明飛中学校三年。男子バレーボール部部員兼テニス部部員。

レン（上河内 蓮）……明飛中学校二年。男子バレーボール部部員。藤宮とは小学校のバレークラブで一緒だった。

カルロス（砂川 カルロス）……明飛中学校二年。ブラジルからの留学生。

アカネ（黒咲 茜）……明飛中学校二年。生徒会副会長。美術部部員兼男子バレーボール部マネージャー。

マカベ（真壁 勇）……明飛中学校一年。美術部。少女まんが家を目指している。

ある地方の、ある町にある、明飛（めいひ）中学校。

山に囲まれており自然豊かで、物寂しげな雰囲気漂う。

校舎と体育館は離れて建っており、体育館は坂を少し登った先にある。

体育館裏にも坂があり、そこを登った先にはプールがある。

校舎と同じ高さにグラウンドがあり、グラウンドの端には部室棟が建っている。

生徒達からはミントと呼ばれるその学校は、年々生徒数が減ってきている。

客席はスポーツ観戦席のように舞台を囲むようにして造られている。

舞台中央にはひし形で造られた空間が存在する。

舞台下手には段差があり、道路を挟んで校舎へと続く道となっている。

舞台奥には錆びた格子がある。

劇中には7つの空間が存在する。

・ 体育館

・ グラウンド

・ 美術室

・ 砂浜

・ 航の部屋

・ 体育館屋上

・ 試合会場

※『』のセリフは役者のモノログである

※役名の上に●がつくセリフはほぼ同時に発話する

マスクをつけた青年 藤宮航（以下、航）が会場に現れる
それを見つけた教師が航に声をかける

教師 ……航？

航 ……え？ あ、お、お久しぶりです。

教師 久しぶりじゃん。元気してた？

航 まあ、なんとか。

教師 なんとかね。なんとかかってなんだよ。

航 いや、ははは…

教師 急にきてどうしたの？

航 久しぶりにこっち帰って来たんで、学校見に行きた
いなって。

教師 あれ？ こっちいたんじゃないんだ。

航 いえ、今は東京にいて。

教師 東京。

航 はい。

教師 東京で、何やってんの？

航 あ、演劇、やっています。

教師 演劇って、舞台とかで、歌ったり、踊ったり。

航 ああ、はい、そんな感じですよ。

教師 劇団四季。

航 違います。

教師 四季くくく。

航 ははは…

教師 じゃあ、あれだ。今度中学生役とかすんの？

航 え？

教師 なんか役の取材とかでこっち来たんでしょ。

航 詳しいっすね。

教師 そういうのテレビで深夜とかにやってたからさ。

航 まあ、そんな感じですよ。

教師 そう。

航 校舎とか見学しても良いですか。

教師 いいよ。俺が言うのもなんだけど、こんなところで
良ければどんどん見てって。あ、俺、先生達に言っ
とくからさ。

航 ありがとうございます。

教師 あとでサインくれな。

航 （苦笑）ああ、はい。

教師 じゃあ、また。

航 はい。

教師、去っていく

航は舞台中央へ地面を確かめるようにゆっくりと移動する

航はマスクを外す

体育館の床と室内用運動靴が擦れる音

体育館の床にボールが叩きつけられ弾み響く音

部活中の少年少女が張り上げる声

『どうしてここに来たのか、ずっと考えている。』

『体育館の、床と、靴が擦れる音、ボールが弾み、
床が軋み、響く、その音を聴くたびに、なんだか
懐かしい気持ちになったり、思い出したくもない
ものを思い出したり…』

航は深呼吸をする

航は深呼吸をする

航は深呼吸をする

航は深呼吸をする

航は深呼吸をする

航は深呼吸をする

音に引っ張られるかのように体育館へ入っていかうとする

鳥が羽ばたく

体育館から上河内蓮（以降、レン）が現れる

レン 航！

航 え？

レン そこで何してんだよ。

航 え、いや、え？

レン 説明会、始まってんぞ。

航 え……

レン 次、バレー部だから！

航 バレー部……？

レン 行くぞ！

レンは航を後ろから押しながら連れていく

レン 早く！

航 え、え、あ……！

レンに促され、航は体育館へ入っていく

体育館

黒咲茜（以下、アカネ）がマイクを片手に出てくる

アカネ

部活動説明会、司会は生徒会副会長の黒咲茜がお送りしております。続きまして、男子バレーボール部です。男子バレーボール部部長の菊地さん、

副部長の早乙女さん、よろしくお願ひします。

菊地祐馬（以下、キック）と早乙女駿（以下、シュン）が勢いよく現れる

キック おらあ！

シュン つしやあ！

キック きたぞ、おら！

シュン きたぞ、おい！

キック 最後まで見ろよ！

シュン 最後まで聞けよ！

キック マイク貸せや！

キック、アカネが持っているマイクを奪う

アカネ あ……！

キック おらあ！

シュン きたぜマイク！

キック やんぞおらあ！

シュン 見せたれ見せたれ！

キック おー！

シュン 見せたれー！！

キック おー！！

キック、ポケットから紙を取り出す

キック

（紙を見ながら棒読み）……僕たちは、男子バレーボール部です。部員は現在三名、マネージャーが一名います。皆さん、バレーボールってご

存じですか？ バレーボールは六対六でボールを落とさず、自分たちのコートから相手のコートへレシーブ、トス、アタックの三回で返していき、ボールが落ちたら点数が加算され、二十五点を先に取ったほうが勝ちのスポーツです。

キック、シュンに紙を勢いよく渡す

シュン (紙を見ながら棒読みで) ……僕たちは、平日の授業終わりに活動しています。休日も練習していますが、試合が入ることもあります。部員のみんな優しく良い人たちばかりです。バレーボールは六人いないとできません。僕たちは今、部員が足りなくて試合ができないです。バレーボールがしたいです。もし興味がある人いましたら是非、男子バレーボール部へ、(小声で) せーの……

●キック 来てください。
●シュン お越しくください。

間

キック つしやおら！
シュン どうだー！
キック 見たかおら！
シュン 聞いたかおい！
キック 待ってんぞ！
シュン 愛してるぜ！

キックとシュン、勢いよく去っていく

アカネ あ！ マイク返してください！

アカネも去っていく
いつの間にか遠くで見ていた航とレン

レン あー……

航 ……

レン あれはダメだわ……

航 はい……

航とレンも去っていく

部室

キックとシュンが落ち込んでいる
それを黙って見ているアカネ

全員 ……

キック お前、お越しくさって何だよ。

シュン ごめん。

キック 何畏まってんだよ。

シュン ごめんって。

キック 一年生に舐められたらどうすんだよ。

シュン ……

アカネ キックさん、シュンさんをそんなに責めないでください。

シュン アカネちゃん、いいんだよ。俺が悪いんだから。

アカネ いや、でも、

キツク だってよ、シュンがこういう感じで行こうって言ったのにさ、怖気づいちゃってよ。

シュン 緊張したんだよお。

アカネ あの、私が言うのもなんですけど、キツクさん人の事言えないですからね。

キツク 何だよ。

アカネ シュンさんより緊張してたじゃないですか。

キツク してねえよ！

アカネ じゃあ、何でカンペ取り出すんですか。

キツク あれは……

アカネ 覚えてきてくださいって渡しましたよね？

シュン 正直、キツクがカンペを見たから話すこと全部吹っ飛んだんだよね。

キツク な、お前、言い訳してんじゃねえよ。

アカネ 顔見て話さないと印象悪いですよ。

●キツク そうなの？

●シュン そうなの？

アカネ はい。そのせいでほら、全然来ないじゃないですか。どうするんですか、人集まらなかつたら？ほんとにバレーできなくなっちゃいますよ。

静寂

キツク ……やっぱレンがやるべきだったんだよ。

シュン レンくんのがまだ親しみがあるよね。学年近いんだし。

アカネ レンくんはああいうの意外と苦手なので。

キツク そうかあ、ノリノリでやりそうだけだな。

シュン まあ、今頃、レンくんが一年探してきてくれるで

しょ。

キツク 何だよ、またレン頼みかよ。

シュン 俺らが声かけても一年寄らないでしょ。

キツク 俺なんか近づいただけで逃げられたもんね。

シュン 自慢みた言うなよ。

キツク 自慢じゃねえよ！俺だって、一年と喋りたいよ

アカネ お。喋りながら牛丼食べたいよお。

アカネ なんで牛丼？

部室のドアがノックされる

シュン はい。

レンが立っている

後ろには、入部届を持った制服姿の航が立っている

レン お疲れっす！

●キツク おう。

●シュン お疲れ！

●アカネ あ、お疲れ。

キツク ……後ろの子、誰？

レン あ、一年、連れてきました！

キツク え、マジ！？

シュン おー！

レン 俺の後輩です！航！（前に出す）

航 あ、藤宮、航です……。

キツク おー！ほー！、航くんね！俺、菊地祐馬、キツク

って呼んで！よろしくね！

シュン レンくんの後輩かー！早乙女駿、シュンって呼ん

でいいよ。よろしく！

航 あ、よろしくお願ひします……

キック んう、よろしくねえ。あの、バレーの事なんでも聞いてね。
シュン キック、そんなガツガツいくなって。緊張してんだろ。
キック あ、ごめんねえ。
航 あ、はい。
キック ういー、とりあえず安心だな！
レン 俺のツテ、もういないっすよ。
キック まだいるだろ。
レン いないっす。みんな断られちゃったんで。
キック マジか。
レン キックさんはいないんすか？
キック 俺は、いないよ。
レン いや、いるでしょ一人ぐらい。
キック いねえよ！ だつて俺、友達、少ないもん……！
アカネ ええー……
キック なんだよ……！
航 あ、あの……
アカネ ん？
航 えっと、
アカネ あ、黒咲苗です。アカネでいいよ。
航 アカネさん、よろしくお願いします。
アカネ うん。
キック まあ、俺の友達はともかくさ、一人来てくれたんだから、今日はいいじゃん。な。
シュン まあな。
レン 今頃みんな悩んでるんすよ。
キック だよ、俺達の部活紹介が最高すぎて余韻に浸ってたんだよな。
レン いや、それはないっす。

キック んだよ、それ。
レン 最悪でした。
キック んだ、おま、やってみろよ！
航 あ！ あの、担任の先生に入部届渡しに行っても良いですか？
シュン ああ、そうだったね。うん、いってらっしゃい！
キック いってらー。
レン らっしゃい！
アカネ いってらっしゃーい。
航 ……。

航、部室を出ようとするが、振り返る時間が止まり、緩やかに動いていく
部室を眺め、キック達を眺める

航 『どうしてここに来たのか、ずっと考えている。』

航 『あのとき僕は確かにここにいて、あのとき、手放したくて、届かなくて、飛びたくて。戻りたくはないと思っていたはずなのに。僕は、ここに、明飛中学校男子バレーボール部に戻ってきた。』

「飛べない鳥たちよ、」

グラウンド

部活着のシユンとレンがいる

レンがボールカゴ持って出てくる

傍に制服姿の航

シユン ポジションは、どこだったの？

航 あ、えっと、ライトアタッカーやってみました。

シユン え、俺と一緒に！

航 あ、そうなんですか。

シユン じゃあ、ネット際の戦いも心得てるわけだ。

航 え、いや、そんな……

レン 航のアタック、パワーありますよ！

航 いや……

シユン いいねー！ パワーあるの大好きよ俺。

レン 陰ながらワタツクって呼んでます。

シユン いいじゃん、ワタツク！ 使ってこーよ！

航 あ、あー、そうですね……

レン 今度俺トスあげるから、キツクさんに見せつけてやろうぜ！

航 あ、はい……！

レン 航？ 小学校の時みたいにフランクでいいんだぞ？

航 あ、うん……

シユン ああ、まあ、中学となるとまた変わってきてね、

難しいよね。

航 はい……

レン そうなんすね。俺、全然変わらないですけど。

シユン それは逆にすごいよね。

レン えん。

シユン それよりさ、レンくん達、明飛小学校バレークラ

ブってさ、ジュニアリーグ行ったんでしょ。

レン そうっす！

シユン 航くんも？

航 あ、はい。

レン こいつ、二年連続でいってます。

シユン すごいじゃん！

レン 俺は小三から始めたんすけど、航は小五からですよ。

シユン いや、もう、才能の塊だね！

航 いやいや……

シユン 俺、教えることないかも！

レン あ、でも、小学校はローテーションがないっす！

シユン あ、それは教えなきやね。

航 ローテーション？

レン えん、今日、教えますか？

シユン うん、教えてあげて。

レン わっかりました！ キツクさんは？

シユン 補習。

レン え、さつき部室

シユン 連れてかれた。

レン んええ……

シユン 航くん。

航 あ、はい。

シユン 制服だと汚れるし、とりあえず、体操服でいいから着替えてきなよ。

航 はい！

航、着替えに行く

航、着替えに行く

レン じゃあ俺は、練習始まる前に歯を磨きます！

シユン うん！

レン、走り去っていく

シュン、ボールをカゴから取り出し、ボールを何回かバウンドさせ、サーブを打つ
その動作を続けていく

レン、歯磨きをしながらやってくる

歯磨きをしながら喋るレンの言葉はかなり聞き取りづらい
(※しかし、何故か航とマカベ以外は聞き取ることができ
る)

レン (歯磨きをしながら喋っている) どうですか？

シュン あー、やっぱ外だと調子狂うね。

レン 負けたんすか？

シュン あー、女バスにね。体育館、ジャンケンで取られ

ちやって。最初は勝ったんだよ。でも、キックの

やつがさ、泣きの一回に乗せられて。

レン あー。

シュン またこのパターンだよ。

レン キックさん、女子に甘いですもんね。

シュン そうねえ。

レン 他に新入生来ました？

テニスラケットを肩にかけ白い帽子をかぶりミニスナックゴ
ールドを頬張っている男 長宗我部 清志(以下、ベッキー)
が現れる。

シュン それがね、まだ来てないんだよね。

レン まじすか。

シュン どうしよう、やっぱ時代はサッカーなのかな。そ
れとも、野球？

ベッキー テニスだよ！

シュン うわ！

レン ベッパイ！

ベッキー ベッパイ言うな！

シュン 何、ベッキー来てたの。

ベッキー 来て悪い？

シュン いや、今日は？

ベッキー わりいけど、今日はあっちに顔出してくるわ。

シュン そう。

レン えー、こっち来てくださいよ。

ベッキー あっちも大会近いからさ。

航、やってくる

レン あ、来た来た！

航 ……え？

ベッキー 何、新入部員？

航 あ、藤宮航です。先輩は？

シュン 長宗我部 清志。みんなからはベッキーって呼ばれ
てる。

航 ベッキー、先輩。

シュン 気軽にベッキーでいいよ。

ベッキー なんてお前が全部言うの。

レン ベッパイ！

ベッキー ン、だからベッパイ言うな！

航 でも、それ。(ラケットを指差す)

シユン あ、ベツキーはさ、テニス部も兼部してるんだ。
たまに練習来たり、試合出てくれるよ。

ベツキ まあ、助っ人外国人枠みたいなの。

航 おお！

ベツキ よせよ。

レン ……。

シユン あ、航くんさ、クラスにバレ―興味ある子いな

航 い？

航 あ、え、分からないです。入学したばかりで、ち

よっと…。

シユン あ、そっか…。

ベツキ あ、一年なんだ。

航 はい、なんか、ごめんなさい。

シユン あー、いやいやいや、ごめんね。

レン 俺は入学してすぐにみんなと仲良くなれましたけど

どね。

航 え？

シユン それはレンくんだからだよ。

ベツキ 誰だってそんなグイグイ行けねえよ。

レン いやいや、みんなそうですよ。航もみんなに話し

かければいいんだよ。

航 え？ え？

シユン それはきついのよ。

ベツキ 失敗したら一年間どうすんだよ。

レン 話しかけてダメだったならそれまでつすよ。俺に興

味ないんだなーで終わるんで。

航 ……？

キツク、勢いよくやってくる

キツク おおい！！！！

●シユン お疲れー。

●ベツキ お疲れ。

●レン お疲れつす！

●航 あ、お疲れ様です。

キツク おい！ 見つけたぞ！

ベツキ 何？

キツク 逸材！

シユン え、逸材？

キツク しかも一年生！

航 え、誰ですか？

キツク わかんない。

レン わかんないって。

キツク わかんないけど、あれは百年に一人の逸材だよ！

シユン どこにいるの？

キツク 美術室。行くぞ、みんな！

シユン つしやあ！

キツク 明飛中学校男子バレ―ボール部名物、誘拐！

レン 名物なんすか、それ。

シユン キツクと俺は元々違う部活入ってたからね。

航 え、ほんとですか！？

シユン 俺、元々サッカー部だったんだよね。

航 え、菊地先輩は？

キツク 卓球部。

間

キツク なんだよ！！

航 いや…

キツク 行くぞ！

レン はい。

キツク おい、ベツキーも行くぞ！

ベツキ 俺はいいや。

キツク なんだよ、つれねえな。

ベツキ 練習あんだよ。

キツク おん。

ベツキ 先輩の真似事すんのかよ。

キツク 何だよ、いいじゃねえか。

ベツキ ま、いいけどよ。俺は行かねえわ。

キツク ……。

シユン キツク、そんなやつ放っておいて早く行こうよ！

キツク 逸材逃げちゃうよ！

レン やっべ、早く行こうぜ！

航 先に口洗わせてください！

航 (ベツキーの後ろ姿を見) ……あ、待ってください！

く キツクとシユン、レンがベツキーとは逆方向に走り去っていく

航 『口だけのライトアタッカーだったなんて言えな

かった。あのとき僕は、トスさえ上げてもらえ

なかった。レンさんのフォローが心苦しくて、

胸が張り裂けそうだった。』

航はそれを追う

美術室

真壁勇（以降、マカベ）とアカネが入ってくる

アカネ

ごめんねえ、教室の前でずっと待ってくれてたんだよね。美術の先生がさ、鍵持ったまま校内ウロウロしてたらしいんだよね。私さ、ほんと慌てて学校中探して回ってて、色んな人に美術室の鍵持っていないですかって聞いたんだ。でもさ、冷静に考えて美術室の鍵持ってるのって美術の先生だけだよ。校長先生が持ってるわけないよね。私、すぐ視野が狭くなるからさ。

マカベ

あの。あ、ごめん、どうでも良かったよね。

アカネ

いえ。…背、高いねえ。何センチあるの？

マカベ

189・9センチ。(身長は役者によって変わる)

アカネ

たかつ！

マカベ

……。

アカネ

あ、それなら良かった、です…。

マカベ

いや、全然。

アカネ

あ、それなら良かった、です…。

マカベ

沈黙
入部希望だよ？

アカネ

はい。

マカベ

ほんとに美術部でいい？

アカネ

はい。
普段は、絵描いたりするの？

マカベ、鞆からスケッチブックを取り出し、アカネに見せる
アカネ うまつ！

アカネ、見入る

アカネ あ、このツインテールの子可愛い。

マカベ ナナちゃん。

アカネ ナナちゃん？

マカベ ナミダナ ナナちゃん。

アカネ へえ、可愛いね。涙袋めっちゃ可愛い。

マカベ そこ頑張りました。

アカネ へえ……

マカベ ……実はナナちゃん主人公の漫画を描こうと思つてて。

アカネ え、凄じやん。

マカベ ありがとうございます。

アカネ タイトルは？

マカベ え？

アカネ ナナちゃんの漫画のタイトル。

マカベ ……「ぶるろりとるて〜ナミダ翔ける青いあーしの春うらら〜」。

アカネ へえ……なんかスイーツみたいだね。すごく甘そう。

マカベ はい……。

アカネはページを進めていく

マカベ ……あの、漫画を描く場所が欲しいのもあって、

美術部入ろうかなって。

アカネ え、あ、もう、どんどん入って！ あ、えっと、名前聞いてもいい？

マカベ 真壁です。真壁勇。

アカネ マカベくん、逸材だよ！ うちのホープ！ うちの美術部から少女まんが家が出るかもね！（あちこちを忙しなく指差し）あ、ここ、何でも揃ってるから！ Gペンとか幾らでも使っていよいよ！

マカベ ありがとうございます。

アカネ マカベ先生って呼んでもいい？

マカベ それはちよつと……

アカネ そうだよねえ。

間

アカネ あ、私、この後バレエ部に顔出すんだった。

マカベ バレエ部？

アカネ そう、マネージャー、勝手にやってるの。うちの父さんがさ、バレエ好きで、それで私も昔からバレエが好きで。

マカベ 自分ではしないんですか？

アカネ 女バレには体験入部したんだけど、私、球技全般ダメなんだよね。あと、女バレの人達とも合わないから。

マカベ そうなんです。

アカネ あ、あ、生徒会の方にも顔出さなきゃいけない……忙しいですね……

マカベ そうなの……。もう、なんでいつもこんなに抱えてるんだろ……

キック、シュン、勢いよく入ってくる

それに続き、レン、航

キツク おらあ！

シュン ここか！

レン お疲れっす！

航 あ、失礼します。

アカネ え、何！？

マカベを見る四人

●キツク おー！

●シュン 逸材だー！

●レン でっけ！ でっけ！

●航 でかい……

マカベを囲む、キツクとシュン

アカネ え！？

マカベ え。

キツクとシュン、マカベを連れて行こうとする

マカベ え、え、え、え、え！？

アカネ ちよちよちよちよちよ、待ってください！ 何

しに来たんですか！

キツク ……君、名前は？

マカベ 真壁勇です……。

キツク マカベ君、今日から君はうちの新入部員だ。

シュン おめでどう！

マカベ え、どなたですか……？

キツク 菊地悠馬、キツクって呼んで。

シュン 早乙女駿、シュンって呼んでいいよ。

●キツク おめでどう。

●シュン おめでどう。

キツクとシュン、マカベをさらに連れて行こうとする

マカベ えー！

アカネ、マカベを引っ張る

アカネ ちよつと待ってください！ マカベ君は美術部部員

です！

キツク じゃあ、兼部しようか。

シュン おめでどう！

アカネ え、待って！ 待って！ ノーノーノー！

キツク なんだよ、何がダメなんだよお。

アカネ、マカベのスケッチブックを取り出し、キツク達に見せる

マカベ あ。

キツク 何だよこれ。

アカネ ナミダナ ナナちゃん。マカベくんのオリジナルキ

ャラクター。

シュン ナミダナ？

アカネ 可愛くない？

キツクとシュンはいまいちピンと来ない

レンに見せるが分かっていない

航にスケッチブックが渡る

航 あ、可愛い。

アカネ でしょ！

航 ツインテール、僕も好きです。

マカベ (頷く)

航、見入る

レンはそれを不思議そうに眺める

キツク それが何だよ。

アカネ マカベ君は少女まんが家を目指しているの。バレ

ーしている暇はないの。うちのホープなの。

キツク ホープ？ ホープって、なんそれ？

シュン え？

アカネ 希望！ 期待！！ 望み！！！！

キツク ……ああー。

シュン ……こつちでもホープになれるよ！

キツク そう、君ならなれる！

シュン おめでとう！

アカネ ノーノーノーノー！

キツク おい！ レンも手伝えよ！

レン え、あ、はい！

レンも加わる

キツクとシュン、レンが共に引っ張り、

マカベはそれに抗い、後ろでアカネが引っ張っている

三対二で引っ張り合う形になる

キツク達は何故か歌いながら引っ張っている

アカネ ホープ！ ホー…ホープ！
マカベ ち、千切れる……！！

攻防が続く

航は入れず、ただ見ている

マカベ や、やめて下さい！

マカベが腕を払い、五人が一斉に倒れ込む

アカネ ホープ……

マカベ (キツクの方を見て) あの……

キツク 何だよ……

マカベ 青春は、

キツク え？

マカベ 青春は、本当に存在するのでしょうか。

キツク ……あるに決まってるんだろ！

シュン あるよ！

マカベ じゃあ、青春って何でしょうか。

キツク それは……熱いものだよ！

シュン いや、そこまで大雑把なものじゃ……

キツク (自分の胸とシュンの胸を叩き、マカベの胸も叩く) こことここが、こう、だよ。

シュン ……？

アカネ ……。

マカベ ……！？

沈黙

マカベ ……そうですか。アカネ先輩。
アカネ 何？

マカベ ……僕、少年漫画も好きなんですよね。

アカネ え、どういうこと？

マカベ 兼部します。男子バレーボール部に入ります。

キツクとシュン、歓喜する

レンと航、歓喜の波に巻き込まれる

アカネ え、マカベ君、なんで！？

マカベ ……僕、この学校での生活が、青春が、このまま
終わってしまうのかなと思って。確かに漫画を
描くのも大事だけど、それだけじゃいけない気が
してて。僕の青春は今ここからだ、この人達の
目を見て思いました。

アカネ 目えー…

マカベ アカネ先輩、ごめんなさい。でもこれはきつと僕
にとって大事なことです。

アカネ ……わかった。マカベくんがそこまで言うなら、
いいよ。

マカベ ありがとうございます。

キツク よろしくな！

マカベ よろしくお願ひします。

シュン マツカベ、マツカベ、マツカベ…

マカベを囲み、怒涛のマカベコール

レンも巻き込まれ、何故かアカネも参加する

その様子を見つめる航

航

『この日のことは覚えている。自分の入部した日。
マカベさんと初めて会った日。当時はマカベさん
に対して、何とも思わなかったが、今は素直に尊
敬する。やりたいことを口に出し、見たいもの、
終わらせたくないものにとことん向き合ってい
る。……果たして自分はもうどうだったんだろう。』

グラウンド

キツク、シュン、レンはマカベコールをしながら入ってくる
航、マカベ、アカネは遅れて入ってくる

キツク うーし、やるか！

シュン あ、待って、マカベくんを紹介まだだったよね。

マカベ こっちがレンくん、航くん。

レン よろしくお願ひします。

航 よろしくお願ひします。

レン 今日は、何します？

シュン えっと、レンくんは航くんはローテーションを教
えてやって。俺はキツクと一緒に、バレーの基礎

的なことをマカベくんが教えるから。

航 あい！

レン よろしくお願ひします…

航 ま、ローテは簡単簡単。

キツク マカベくん、一緒にバレー学びましょうねえ。

マカベ わ、わ…

シュン もう、背が高くて惚れ惚れするわあ。

キツク ほんと、逸材は違うわあ。

マカベ ちよつと、誰か…

ベツキー、練習から帰ってくる

ベツキ おつー。

キック お！お疲れ！

アカネ ベツキー先輩。お疲れ様です。

レン お疲れっす。

シュン お疲れ。早いね。

ベツキ 今日はちよつとね。

キック それより見るよ。逸材が二人。

ベツキ へえ、もう一人増えたんだ……でかつ！

マカベ 真壁勇です。よろしくお願いします。

ベツキ あ、長宗我部清志。よろしくね。

シュン ベツキーでいいよ。

レン ベツパイ！

ベツキ ベツパイはちやう！

アカネ テニス部の方はもう大丈夫なんですか？

ベツキ ダブルスの子が急に休みになったから、早上がり。

アカネ え、何かあったんですか？

ベツキ なんか熱出たみたい。

アカネ あー、先輩も体調気を付けてくださいね。

ベツキ ありがとう。

アカネ ……（頷く）。

キック うおい、ベツキーも練習すつか！

シュン いいね、やろうよ！

レン いいっすね！

ベツキ 今練習終わったとこなんだけど。

キック いいじゃねえか、航とマカベにバレエ教えてやっ

てよ。

ベツキ 俺から教えてやれることなんて何も無いよ。

キック 何かツッコつけてんだよ。

アカネ あ、私、スポドリ作ります！皆さん、何が良いですか？

キック 俺、ポカリ！

シュン アクエリで！

ベツキ DAKARA。

レン ゲータレードお願いしますやす！

アカネ あ、一つにしてください……

キック じゃあ、ポカリだな。

シュン いや、アクエリでしょ！

ベツキ DAKARAだろー！

レン ゲータレード。

キック ふざけんなよ、お前ら！ポカリに決まってるんだろ

うが！

アカネ ちよ、ちよつと……

キック 部長の俺がポカリと言ったらポカリなんだよ！

シュン ポカリはお腹壊すから気に入らねえんだよ！

ベツキ アクエリは、しよっぱい。

シュン 何だよ、しよっぱいって！

キック だからって、DAKARAは違うだろ！

ベツキ DAKARA、いいだろうがよ。

レン ゲータレードがいいと思います。

キック なんだよ、ゲータレードって！

レン え、知らないんですか？（半笑い）

キック おま、なんだその顔！

アカネ ちよ、ちよつと、やめてください！

シュン アカネちゃん、アクエリで。

キック 抜け駆けすんなよな！

レン と見せかけて、ゲータレード。

キック 見せかけんな!

ベッキ DAKARA(ど)よー!

アカネ あ、じゃあ、DAKARAにしようかな。

キック 何なびいてんだよ!

シュン あ! じゃあ、今から外周3周して、スポドリどれにするかは一番の人が決められる、というのほど

う?

キック え、走んの!?

ベッキ ええ……

レン いいっすね!

シュン 航くん達も!

●航 え!?

●マカベ あ、え!?

アカネ あのう……もしかして私もですか?

キック 当たり前だろ!

アカネ うえー! 聞かなきゃよかったあー!

シュン よーし! 位置についてよいドン!

シュン、真っ先に走り去る

シュンに追う形で皆それぞれ動き出す

キック おま、ずるいつて!

ベッキ 俺、今練習終わったんだけど……

レン こういうのいいですね! まあ、絶対ゲータレード

なんですけど!

キック だから、ゲータレードって何だよ!

マカベ あ……

アカネ なんて私までえー……

航

待ってください……

部員達、走り去っていく

サンガラスをかけた男 砂川カルロス(以下、カル)が出てくる

ボールカゴからボールを取り出し、ジャンピングサーブ
ボールの行き先を見つめる

学校のチャイム

カルロス、校舎へ向かう

航の部屋

暗闇の中、辺りに散らばったゴミが踏まれている

カサツカサツ

蛇口から少しだけ水がこぼれている

舞台奥から歯磨きをしながら航が現れる

衣服は現代の物である

着信音

急いでスマホを取り出す

航

あ、もしもし、藤宮です。はい。はい。それで……

……あ、そうですか。すみません、わざわざ連絡していただいて、まあ、次ですね。こういうこ

とよくありますよね。はい。向こうもいい人見つかっ

ったんですよ。あ、一つ受かりそうなのあつて。あの、この前出したやつです。今、最終まで

いってて、はい、頑張ります。ありがとうございます。
ます。はい、失礼します。

電話を切る

航、スマホを投げ、横になる

航 ……。(小声で何か言っているが聴こえない)

静寂

航、スマホで時間を見る

立ち上がり、歯磨きを再開しながら奥へ消えていく

部室

シュンとレンが話しながら入ってくる
少し離れて、そのあちをマカベが絵を描きながら入ってくる

レン どうすんすか？

シュン どうしよう……

レン このままじゃ地区予選出れないっすよ。

シュン そうなんだよね……

レン あの、あれ、バレーボール部名物はどうなったんですか？

シュン それがね、野球部に突撃したら、めちゃくちゃ怒

られてさ、顧問呼ばれて、

レン うわー……

シュン そのままキックが職員室に呼ばれてしまっ

て。

レン 逆に捕まってんじゃないすか。

シュン 野球部行ったのさすがに不味かったなー。

レン そうっすね……

シュン 俺のことは気にするな、早く逃げろって。

レン なんでそこでカッコつけてんすか。

シュン 職員室向かうキックの顔が今にも泣きそう(笑)

レン 泣いてんすか(笑)

シュン うん、もう色々悟ってて。身体中。

レン 身体中で悟ってるってなんすか。

シュン あれだよ、走馬灯みたいな。

レン それ、死ぬ前のやつっす。

シュン じゃあ、幽体離脱？

レン それは色々超えちゃってます。

マカベ 幽体離脱？？

間

シュン ……あ、なんかね、顔がろ過したみたいになっ

て。

マカベ 理科の実験じゃないんですから。

マカベ ろ過？？？

間

シュン ……とにかくさ、やばいんだよね。職員室呼ば

れたらペナルティつきそうだし。

レン 部の存続も危ういですね。

シュン 部停になったらどうする？

レン えー、それはないでしょ。

シュン それがあるのよ。実はさ、男バスが体育館裏でタ

レン バコ吸ってるのバレてペナルティで部停になったんだって。
えー、でも、それとこれとは違うんじゃないすか？

航、部室に入ってくる

航 お疲れ様です。

●レン お疲れっす！

●シユン お疲れ！

●マカベ お疲れ様です。

レン ていうか、男バス、タバコ吸ってたんすか？

航 あ……

航、知ってるの？

航 さつき、クラスの子から聞いて。

シユン 友達出来たんだ。

レン 良かったなあ。

航 いや、大袈裟ですよ。

レン てか、なんで吸ってるの見つかったんすか？

シユン あー、吸い殻が見つかったらしくて。

レン いやでも、なんで男バスって？

シユン 灰皿もね、忘れてて。

レン ええー……

シユン それがさ、普通の灰皿ならいいんだけど、灰皿の裏に男バスって書いてあって、それでバレたんだって。

航 なんすか、それ。

航 そこ素直なんすね。

レン 名前書く癖ついてたんすね。

シユン 「うわ、タバコの吸い殻だ。灰皿もある。どこのどいつだー。ペラッ、」

●シユン 男バス。

●レン 男バス。

●航 男バス。

（竿を持つ素振り）あ、めっちゃ、引いてる！めっちゃ、引いてる！なんだろなんだろなんだろー！？ビタンツ、バチャバチャバチャツ。

レン あい、これ、ブラックバス。

航 ブラックバス(笑)。

マカベ ……！（思わず吹き出しツボってしまった）

ツボっているマカベを見る三人

シユン ……バスケ関係なくなっちゃったね。

レン あー、久しぶりに釣りに行きたくなっちゃった。

シユン レンくん、よく釣りに行ってるよね。

レン 航ともよく行ってきましたよ！

航 川が多かったですよね。

レン こいつ、川魚を半生で食べて蕁麻疹だったんすよ！

航 あれは、レンさんがもう焼けたって言うから！

レン ごめーん。

シユン いいなー、俺も釣りたいよ。

レン みんなでしましょうよ！釣り合宿！

シユン 釣り合宿！いいね！

航 いいですね！

航 マカベも行こうぜ！

マカベ え、あ、はい……（まだ若干ツボっている）

航 マカベさん、さつきから何描いてるんですか？

マカベ ……え、新キャラ。

航 (覗く) え、めっちゃ可愛いですね！

マカベ そう？

航 三つ編みですか。

マカベ あー、そうなんだけど、ポニーテールのが可愛いかなって。

レン ぼにーてる？

シユン 馬の尻尾。

レン ???

航 うああ、ポニーも良いですね。

マカベ 航くんは他に好きな髪型ある？

航 あー…：シヨートボブとか好きです。

マカベ じゃあ、このキャラ、シヨートボブにしよう。

航 え、いやいや、そんなポニーでも良いですよ。

マカベ ……(書いてみんなに見せる) これ。

航 あ、可愛いー！！

シユン え、うまつ！

レン ほんとだ。

シユン ……何かこのキャラ、アカネちゃんに似てない？

レン 似てますね。

マカベ え？

航 あ…：

アカネ、部室に入ってくる

アカネ お疲れ様です。

●シユン お疲れ様です。

●レン お疲れ様です。

●航 (何故か焦る) あ、お疲れさまです！

●マカベ (急いで片付けながら) お疲れ様です！

アカネ あれ？キックさんは？

シユン 職員室。

アカネ ええー、またなんかやらかしたんですか。

レン 色々だね。

アカネ せっかく良いお知らせがあるのに。

シユン 何？

アカネ 練習試合が決まりました！

レン どころ？

アカネ 波武中学校です！

沈黙

アカネ え、どうしたんですか？

シユン ……マジか。

レン またか…：

シユン ハーブハーブ。

レン ハーブ…。

マカベ ハーブ？

シユン この地区の強豪校といたら、波武中学校だよ。

航 あ、なんか聞いたことがあります。

レン なんでまた、うちと。

アカネ それが、新入部員含めての交流という目的で。

シユン ハーブと交流なんかしたくねえよ。

レン でも、このままじゃ一人足んないっすよ。試合で

きないっす。

アカネ え、どうするんですか？

シユン アカネちゃんが入るしかないね。

アカネ え、私ですか？ マネージャーですよ！

レン いいんじゃないんすか。運動神経悪くないし。

シュン この前のスポドリ競争、ダントツで一位だったも
んね。

レン ドベは航。

航 一周遅れでした。

マカベ アカネさん、はやかっただす。

レン エネルゲンまずかったー。

アカネ エネルゲン美味しいじゃん！

レン ゲータレードの方が美味しい。

アカネ なんですか、ゲータレードって。

レン お、やるか？

シュン まあまあまあ、でも、ほんと人いなかったら
アカネちゃんにお願いするしかないかも。

アカネ えー！

航 小学校とかは男女混合でやったりしましたけど。

シュン 中学からは混合でできないからねえ。

航 あ、そうなんです。

レン 練習試合ですし、いいんじゃないですか？

アカネ いや、でも！ テクニックが皆無ですよ？

レン ボールだけ追いかければいいんだよ。

シュン そうそう、落とさなければいいんだから。

アカネ ええー……

キック、勢いよく部室に入ってくる

キック おい！！

シュン びっくりした、何？

キック 聞いたかみんな！

レン 練習試合のことですか？

キック いや、違えよ！ バレーが超上手いブラジル人が留
学してきたんだってよ！

● シュン え、まじ！？

● レン まじすか？

● アカネ えー！

● 航 ほんとですか？

● マカベ ブラジル……。

キック 絶対、ここに連れてこねえと……シュン！

シュン おう！

キック 明飛中学校男子バレーボール部名物……勧誘！

レン あ、ちよつと、やわらかくなってる！

キック みんな、行くぞ！

キック達が部室から出ていこうとすると、

サングラスをかけたカルロスが立っている

長い沈黙

部室に入り、入部届をキックに渡す

キック ア……

カル ？

キック ワッチマヨネーズ？

カル ？？

アカネ What's your name?

カル ……I'm Karuros Sunagawa.

部員全員、歓喜する

怒涛のカルロスコール

カル Shut up! Don't touch me!

キック え？

シュン は？

カル Sorry, I was talking myself.

キック ……？

シュン ……。

アカネ 独り言でしたって言ってます。

キック え、ああ、おん……！

レン それよりキックさん、職員室行って大丈夫だったんすか？

キック え、ああ、体育館もグラウンドも当分使えなくな

つちやつた。

全員 えー！？

レン 何やってんすか。

シュン やっぱ、野球部が良くなかったんだよ。

航 え、練習場所どうするんですか？

マカベ 部停ですか？

キック いや、部停ではないんだけど、野球部に迷惑かけ

ちゃったからグラウンド譲るので許してもらった

ー、みたいな。

シュン いや、そこは死守しようよ！

レン これじゃ練習できないっすよ。

キック まあ、向こうも練習試合あるみたいだし。

シュン 俺らもあるっつて！

カルロス、高々に笑う

間

カル つくづく日本人というやつは視野が狭い。

シュン 日本語喋った。

カル 強くなりたいか？

シュン え？

カル 俺は良いトレーニングを持っている。ブラジル仕

込みのスペシャルトレーニングだ。

レン ブラジル仕込み？

カル 体育館とグラウンド、この二つだけしか頭がない

からいけないんだ。

航 あ、じゃあ、土手で練習するとか？

シュン 土手はサッカー部が練習してるよ。

航 ああ……

カル (航に近づき) 近い。実に惜しい。

航 近い……

アカネ ミスターカルロス、教えてください。

カル ……海だ。

全員 海い？

カル 海に行こう。

沈黙

キック ……よし、わかった！みんな、海に行くぞ！

シュン いや、海って。

レン 海で何するんすか？

カル 行けば分かる。

キック 分かるんだってよ！

シュン ベッキーも呼ばなきゃな！

キック おう！

部員達、カルロスに続いて部室を出ていく

グラウンド

ベッキーがテニスをしている
そこに現れるキック達

キック ベッキー！

ベッキ 何？

キック 今から海行くぞ！

ベッキ は、何で？

キック カルロス仕込みのスペシャルブラジルトレーニン

グを受けに行くんだよ！

ベッキ え、え、は、あ？ 受けねえよ！

キック お前もちよつとは上手くなるだろ！

ベッキ うるせえよ！ てか、カルロスって誰だよ！

キック カルロスはカルロスだよ！

ベッキ 誰だよ！！

シュン ベッキー、行こうよ！

アカネ ベッキー先輩！

レン ベツパイ！

ベッキ わりいけど、俺大会近いから……

カルロスが前に出てくる

ベッキー、それを見る

ベッキ カルロスだー！！！！

ベッキ わり、ちよつと抜けるわ！

部員達は走り去っていく

航 『砂川カルロス。彼を初めて見たときは胸が熱くな

った。やる気も湧いてきた。……ただ単に、ブラジル仕込みって言葉がかっこいいと思っただけだろう。どこかの漫画だかアニメだかで、弱い主人公が修行して強くなる、そんな瞬間をどこかで夢見て。自分を主人公のように置き換えて。全く都合のいい。吐き気がするくらい都合のいい少年だった。それは今も。変わってるのか変わっていないのか。』

砂浜

海が広がっている

アカネは奥にある堤防の上でアイスを食べている

カル これからブラジル仕込みのスペシャルトレーニン

グを始める。

キック ここ、砂で動きづらいぞ。

カル それだ。

キック え？

カル この砂が大事なんだ。砂の呪縛から解かれた時、お前たちは今よりもっと速く動けるようになる。

ベッキ なるほど……

シュン でも、これじゃビーチバレーだね。

カル ビーチバレーだ。しかし、ボールはこれを使用する。

カルロス、レンにバスケットボールを投げる

レン いっつ！

カル 取れ。

航 バスケットボール？

カル お前たちにはこのバスケットボールでバレーをし
てもらおう。

キック ビーチバスケットバレーボール……

カル バスケットボールの呪縛が解かれた時、お前たち
は今よりもっと自由にバレーボールが扱える。

カルロス、地面に脚で線を引き始める

カル 三対三に分かれて、この線がネットだと思ってや
ってみろ！

●キック うし！

●シュン よっしゃ！

●ベッキ おう！

●レン あい！

●航 はい……！

●マカベ はい……

グーとパーで分かれ、
ベッキ・航・シュンの三人とキック・レン・マカベの三人
になる
三対三のゲームを始める

砂で動きにくかったり、ボールが重かったりで動きがぎこち
ない

それでもラリーが続くようになる

鳴き声が聞こえる
イルカが座礁してくる

カル お前たち！ イルカと共に走れー！！

イルカに追いかけて回される部員達

カル 並べ！！

カル トスをしろ！

イルカにトスをする
ドルフィンアタック
飛ばされる部員達

みんなが倒れ込んでいる中、カルロスだけが立っている

キック カルロス……

カル なんだ？

キック ありがとな。なんか強くなれた気がするぜ。

カル それは良かった。

シュン なんか今、何でもできそうな気がする。

ベッキ まるで生まれ変わった気分だ。

レン どういうことですか、それ。

航 練習試合、勝てますかね？

シュン きつと、勝てるよ！

航 勝ちたいです……

マカベ イルカ……。

航 また会えますよ。

マカベ うん……

キック てかさ、練習試合の相手どこなの？

シュン 波武中学校だよ。

カル ……え！？

全員、驚きの声を上げたカルロスを見る

航

『練習試合当日。波武中学校体育館。練習試合でもあの波武からどうにか1セットは取って自信をつけたい。自信。自信なんて元から無いに等しかった。人はやる気と情熱さえあれば生きていける。そう思っていたが、それは違うと後から気づく。それだけではどうしようもないものもある。やがて、削がれて、壊れて、なくなっていく。』

全員が集合している

カルロス、サングラスをかけている

アカネが旗を持っている

シユン

今日はなかなかない素晴らしい練習の機会をいただいたから、波武中学校の皆さまに感謝して頑張ります。

間

キツク ぶっ潰してやる！

レン あれー、感謝どこー？

シユン ほんとだよ！ハーブ粉々にしてやる！

レン どこおー？

ベツキ なんでまたハーブとやんだよ。

アカネ ごめんなさい。

キツク しょうがねえだろー、俺たちと戦ってくれるのハーブぐらいだからさ。

航 それ大丈夫なんですか？

レン まあ、良くはないよな。

航 え？

レン 他が戦いたくないぐらいハーブが強いつてことだよ。

航 ……

キツク まあ、来ちゃったもんはしょうがないだろ！

シユン 今更戻れないもんね。

ベツキ まあ、そうだけだよ。

シユン 部長から何かあるんでしょ？

キツク え、俺から？……まあ、ちょうど七人集まって、

ゲームできるわけだし、みんな全力尽くせるといいな！一人ひとりが何か一つでも持って帰れる、そんな練習試合にしたいな！

沈黙

キツク なんだよ！

ベツキ 予想以上に真面目だったから、みんな困ってんだよ！

キツク 真面目で悪いかよ！

カル あ、あの……

キツク どうした？

カル 実は朝から体調が悪くて……

シユン え、熱とかあるの？

カル 熱はないんですけど、なんかこう、まあ、こう、

分かんなくなっちゃう感じで、

分かんなくなる？

ベツキ え、それはどういう状態？

シユン 昨日からずっと休みたいって言ってんすよね。

シユン いや、めっちゃくちや元気そうだけど。

キック てか、サングラスまだかけてるし。
アカネ 休ませてあげたほうが、
カル ま、まあ、出れるといえれば出れるんですけど出れ
ないと言えれば出れないです。

キック どっちだよ！

ベツキ 出れるなら出たほうがいいんじゃないの。

レン そうっすね。

アカネ あ、私、出れないからね！

カル あ、ああ、じゃあ、で、出ますう……。

キック おま、どうしたんだよ。

航 ……大丈夫ですか？

カル ああ、うん、お、おん、大丈夫大丈夫。

アカネ 無理しないでくださいね。

カル ツスー……。

マカベ ……。

マカベ、カルロスに胃薬を渡す

マカベ 使ってください。

カル え？

マカベ 僕も緊張しすぎて帰りたいです。気持ちわかりま
す。

カル ……ありがとう。

アカネ み、皆さん、頑張つて下さいね！ 皆さんへの応援
旗作ってきました！

シュン え、このペンギンみたいなのは？

アカネ 私のオリジナルキャラクター明飛ペンギンです。

キック なんて、緑なの？

アカネ それは、ミント食べてるからです！

沈黙

シュン さ、さすが美術部……

キック おん……。

ベツキ ……。

アカネ 今日はこれ持って応援しますね！

練習試合、明飛中学校対波武中学校

「明飛中学校対波武中学校 練習試合」

ざこちない円陣から始まる

第1セット

波武からの目線に気を取られているカルロス

シュン、キック、レンでサポートに回る

航はボールを触りそうところでレンに奪われたりする

マカベはとにかくネット際についたまま、飛び続けている
ベツキーのプレイがざこちない

1セット目を取られてしまう

航

『今でも感じる異様な空気。カルロスに対する視
線。カルロスばかり狙われている。取れないこと
はないのに取れない。後衛で構えていた僕は薄々
気づいていた。』

インターバル

キック おい！ カルロス！ 何してんだお前！

カル ごめんなさい！ 次は取ります！

キック 頼むぞ！

ベッキ そう言ってやんなよ。

キック お前も動き悪いぞ！

ベッキ あ？

シュン やめなつて！

アカネ あの、体調、本当に大丈夫ですか？

カル あ、おん、大丈夫です……

シュン マカベくんのブロックがハーブに刺さつてたか

ら、ハーブは次そこを対策してくるだろうね。で

も、マカベくんはとにかく飛んで。

マカベ はい。

シュン みんなはブロックカバーにしっかり意識を向けよ

う。

キック おいよ！

レン 任せてください。

キック まだ1セット、1セット、切り替えるぞー！

第2セット

波武に囚われているカルロス

キック、シュンが声を上げていく

レンは少しヤケになっている

それでもボールに触れない航

ベッキのプレイがさらに雑になる

シュンとレンが二人でやっている

マカベは飛び続けている、第1セットより動きが良い

航

『完敗だ。25対9、25対7、25対4……。その後も負けが続いた。最悪の練習試合だった。持ち帰るものが何一つなかった。波武中学校の、カルロスさんへの強い視線に、僕はどこか既視感を覚えた。』

キック、カルロスを掴み、地面にたたきつける

シュン、カルロスを睨みつける

ベッキ、レンとマカベ、航、アカネが集まる

カル ごめんなさいごめんなさいごめんなさい！

キック お前……！

シュン ……。

ベッキ おいキック、何やってんだよ！

カル ごめんなさい……

アカネ え、あの、どうしたんですか！？

カル 嘘をついてました！ごめんなさい！

アカネ え……？

カル ……ブラジルからの留学生なんて真っ赤な嘘で……

シュン ……俺ほんとは……

カル 砂川虎太郎。

レン はい……

ベッキ 虎太郎？

シュン 波武のやつらから聞いたよ。波武中学からの転校

生。波武中学校男子バレーボール部二年、補欠……

ベッキ ……

カル ……

ベッキ ……

キック お前、何のためにうちに来た？ 邪魔しに来たのか？

カル ち、違います……

キック 何が？

カル 逃げてきました……自分は部の中でバレーが一番下手くそで一年の後輩にも舐められて。バカにされて。

アカネ だから、試合中ずっと狙われていたんだ……

カル みんな、上手くて。あいつら、上手すぎるから練習せずに野球ばっかしてるんです。自分はみんな

が野球してる間コート来ないか監視してて……

ベッキ 野球……。

キック だから、バレーが弱そうなウチに逃げてきたと。

カル いや、ちが、違うくはないんですけど……弱

いんですよ、明飛中学校は！……弱いんですけど……弱ど、なんか羨ましくて……みんな、バレーが好きなんだなって……。

沈黙

カル 波武いる時、バレーが好きでしただけなのにできなくて、僕もみんなと野球しちゃって、分かんなくな

って、バレーが嫌いになりそうで、それで逃げてきました……

カル ごめんなさい……。

沈黙

キック ……やるぞ、バレー。

シュン やろう！

キック 波武なんかボコしてしまおうぜ！

ベッキ あいつらふざけてんな。

レン 徹底的にやったりしましょう。

航 ……。

キック それによ、逃げるならもっと遠くに逃げるんじゃない

ねえの？

カル ……。

キック お前、本当は心の底から波武をボコしたかったんだろ？

カル ……！

キック 好きなバレーやって今度こそボコそうぜ！

カル ……はい！

シュン あいつらが野球してる間、俺らはバレーしたらいいんだよ！

レン 珍しくまともなこと言いましたね。

シュン え、そう？

アカネ 大丈夫です。皆さんなら勝てます！

キック マカベのブロック、めっちゃくちゃ刺さってたもんな！

マカベ え、え、あ、はい！！なんか気持ちよかったです！……あの、めっちゃくちゃ緊張してたんですけど、なんか、自分でも役に立てると思って、すぐくうれしかったです！

シュン いいじゃん！

マカベ だからあの、カルロスさん、一緒に頑張りましたよ

う！

カル ……はい！ありがとうございます！

キック うおっしやー！ 打倒、波武！

シユン ウェーイ！！
キツク これでようやく7人になれたな！
ベツキ 俺らのラストピースはカルロスだったな。
アカネ なんかカッコいい！
シユン カッルロス、カッルロス、カッルロス……
カル あの、ほんとは虎太郎なんですけど……！！
キツク ワッチマヨネーズ？（サングラスを渡す）
カル ……アーム……砂川……カルロス！

怒涛のカルロスコール
航、去っていく部員達を眺める

いなくなったのを確認するとバッグからノートパソコンを取り出し、イヤホンをつける

ノートパソコンを開き、操作をし、しばらく待つ
ZOOMに繋がる

航の独り言のように取れるが、画面の先に人間がいる体で、やり取りをする

航 あ、おはようございます。お疲れ様です。ああ、はい。なんとか。はい……。あ、すいません。はい。あ、よろしくお願いします。

長い沈黙（何かが航に告げられている）

航 え、あ、僕ですか。いや、僕もしようがないかなって思ってます。はい。やりたい気持ちはあるんですけど。今やる場所も、ない、ですよ。やっ

ぱり、みんな負担にもなるから。はい。いえいえ、え、とんでもないです。あの、まあ、皆さん、またお会いしましょう。

航 はい、お疲れ様です。

沈黙

航はノートパソコンを閉じる
ノートパソコンをバッグにしまい、
舞台奥へ行き、スマホで電話をかける

航 あ、もしもし。あ、母さん。うん、夜遅くてごめん。元気？ 急なんだけど、来週そっち戻ろうと思う。うん、あー、まあ、大丈夫だよ。俺今なんともないし。気になるようだったら、言ってね。あ、それで、この間LINEで伝えた主演の舞台なんだけど、中止になった。うん、うん、仕方ないよね。うん、特に決まってる。今はまあ、なかなか厳しいよね。うん、また帰るときに連絡するからさ。あ、うん、今度は遅くならないようにするよ。

航 レンがボールを持って出てくる
その場で一人、レシーブ、トスを続ける

航 うん、レンさんがさ、また居残り練習しようって。そんな遅くならないと思うんだけど、そう、また小学校の時みたい。うん、うん、今日の夕飯は何？ うん、あ、机に置いてたら食べるから。うん、ありがどう。じゃあ、うん。

航、電話を切る

レン お母さん、何て？

航 しっかりやんなさいって。

レン さっすがあ。最高だな。

レン (ボールを渡し) サーブ打ってみ。

航、サーブを打つ

レン おー、大分良くなってんじゃん。

航 ありがとうございます。

レン さすがワタック。さすワタ。もっと腕の力抜いたら良くなるよ。

航 あ、はい。

航、サーブを打つ

レン 小学生の時より良いよ。

航 そ、そうですか？

レン えん。あーあ、クラブの頃が懐かしいなあ。

航 僕はまだ去年のことなんで、あんまそんな感じしないっす。

レン まあ、そっか。

航 ……

レン 来てくれたの、航だけだよ。

航 え？あ、そうですね。みんな、他の部活入りしましたもんね。

レン 軽く流されたよ。

航 マサシさんとかゲンタさんとかは？

レン サッカー部とか吹奏楽とか。

航 ああ……

レン みーんな、バレーから離れちゃった。

航 はい……

レン まあ、いいんだけどさ。なんか寂しいよな。

航 そうっすね……

レン、歯磨きセットを取り出し、歯を磨き始める

航 あ、あの、レンさん。

レン 何？

航 あ、いえ、ああ……

レン 何だよ、言ってみろよ。

航 いやー……

キックとシュン、ベツキーとカルロスがやってくる

キック お、練習してる！

シュン いいねー！

ベツキー 真面目だなあ。

カル 精が出ますね。

キック 俺達もう帰るぞー。

レン わっかかりましたー。

シュン サーブ練？

レン そうっす。

キック レンから見た感じ、どうなの？

レン そうっすね、見た感じ、若干力んじやってるのが

気になるぐらいですかね。フォームは綺麗なん

で、身体の力抜いて、航は前寄りのコース狙って

るんで、刺さったら相手にとって厄介な存在になりますね。

航 え、え？

シユン いいじゃん、前を狙ったら、相手のアタッカー人ぐらい崩せるしね。

キツク いやらしいことするなあ！

レン いやらしいっすよ！

航 あ、ありがとうございます……。
ベツキ ……。

カル 自分は後ろ目を狙ってるんで、前を狙ってくれると温度差あつて良いですね。

航 あ、はい。

レン カルロス！

カル 何ですか！？

ベツキ ……：ていうかさ、何でカルロスなの？

シユン それ思った！

カル え、それ今聞きます？

キツク 聞かれちゃ悪いことなのかよ。

カル いや、そんな大層なことではないんですけど。

キツク 何だよ。

カル ブラジルに憧れがあるからです。

シユン 出た、ブラジル。

カル 皆さん、バレーの日本対ブラジル戦、見たことありませんか？

キツク おん。

カル あの試合を見て、バレー始めたんですよ。

シユン そうだったんだ。

レン ブラジルの選手ってパワーあるよな。

カル そう、パワーです。あのパワーがどこから生まれてくるのか。だから将来はブラジルに行つてバレー

ーがしたいです。

キツク ブラジルって、どこにあんの？

ベツキ 日本の反対側。この地面を真下にずっと掘つたら、ブラジルに着くらしいよ。

●キツク マジで！？

●シユン マジで！？

ベツキ うん、社会の先生が言つてた。

キツク おー？ おー？ おー？（よく分からないまま地面を掘り始める）

ベツキ おい、やめろよ。何年かかると思つてんだよ。

キツク おー……

ベツキ 言葉を失つている……。

シユン ブラジルもいいけど、アルゼンチンもいいよね。

航 あ、サッカーですか！

シユン そう、深夜にグループリーグやっててさ。ちょうどアルゼンチンが試合してて、もうプレーが異次元でさ、朝まで見ちゃったよ。

カル 最高ですね。

シユン だからカルロスの気持ち分かるなあ。

カル あ、ありがとうございます。

シユン 俺は行きたいとは思わないけどね。そこまでの熱意とかないし。

シユン 俺はさ、みんなが楽しくやってくれればそれでいいと思うんだよね。

ベツキ どうしたんだよ急に。

シユン ……。

レン ……口洗つてきます。

航 ……。

レン、出ていく

キツク ……よし、久しぶりにアレ拝みに行くか！
シュン お！

キツク 明飛中学校男子バレーボール部名物！

航 え、まだ何かあるんですか？

キツク 航！アカネとマカベ呼んで来い！

航 あ、はい、え、でも二人はどこですか？

ベツキ 美術室だろ。今日は美術部の活動日だから。

航 あ、すぐ呼んできます！

キツク おう！

シュン 行ってらっしゃい。

航、出ていく

キツク なんかいいな、この感じ。

シュン いいよね。

キツク でも、あそこに行けば、

シュン さらに良くなるもんねー！

カル 気になるんですけど。

ベツキ 俺は帰るわ。

キツク は？

シュン え、何で？

ベツキ いや、明日も早いし。

キツク せっかくだから行こうぜ。

ベツキ 行かねえよ。

キツク なんだよ、気いきかねえな。

ベツキ あ？

シュン キツク。

キツク チームワークをさ、高めるためにも。さつきシュンも言ってただろ。みんなが楽しめるように。ベツキ 俺はいいよ。練習で高めようぜ。

間

キツク だから上手くなんねえんだよ。

ベツキ あ？

キツク そういうこと言うならもうちよっと上手くなってから言えよ！

ベツキ てめえだって上手くないだろうがよ！

キツク は！？

シュン やめなつて。

レンが帰ってくる

レン どしたんすか？

沈黙

ベツキ ぜってえ上手くなってやる！！

シュン え？

ベツキ 明日から覚えてろよ！ぜってえ上手くなってやるから！

キツク おん！

ベツキ そしたら、マジでマジで、こう（手をクロスする）だかんな！

キツク じゃあ、お前が上手くならなかつたら、こことここをこうだかんな！

ベツキ のぞむとこだよ！

ベツキ のぞむとこだよ！

ベツキ のぞむとこだよ！

キック おう！

ベッキ (帰りながら) マジで覚えとけよ！
キック お前こそ覚えとけよ！

ベッキー、帰っていく

シュン あー……。

美術室

アカネとマカベがいる

マカベ すいません。

アカネ いや、謝らなくていいよ。しょうがないことだし。

マカベ せっかく仲間に入れていただいたのに。

アカネ キックさんとかにもちゃんと説明したら分かって

くれるよ。

マカベ キックさん、怒らないですかね。

アカネ 大丈夫だって。

マカベ なんかも裏切るような形になってしまっ

アカネ そんなことないよ。あ、あれだったら私が力にな

るからさ！

いつの間にか美術室のドアの前で航が立っている

マカベ あ……

航 ……。

航 あ、すみません……。

アカネ 航くん。

航 あ、キックさんが二人を呼んで来いって。

アカネ あ、うん、ごめん。すぐ行く。

航 何かあったんですか？

アカネ ……。

マカベ ……実は、転校することになって。

航 え？

マカベ 親の転勤が決まって。

航 え、いつ？

マカベ 多分、大会の後……。

航 ……。

マカベ キックさん達に伝えた方がいいかな。

航 ……いや、伝えない方がいいと思います。

アカネ 私は伝えたほうがいいと思うけど。

航 今、チームが大会に一直線なんで、あまりそれを

邪魔しない方が……

アカネ ……そっか、そうだよ。

航 これは、三人だけの秘密ということ……。

マカベ ……はい。

アカネ ……わかった。

アカネ あ、本当に、力になれることあつたら言っ

私にできることがあるなら何でも言っ

マカベ あ、ありがとうございます。でも……

アカネ でも？

マカベ アカネさん、忙しそうなんで、これ以上お世話に

なるわけには……

アカネ いや、私は大丈夫だよ。

航 あ、アカネ先輩、無理してないですか？ 昨日は生徒会の方出てましたよね？

アカネ あー、あ、うん。まあ、生徒会は大丈夫。

アカネ 私さ、断れないんだよね。それが凄く良くないと
こだと思うんだけど。

マカベ 良くないです。

アカネ あ、うん。

航 ……。

アカネ ときどきさ、考えるんだよね。どれか一つでもや
めた方がいいかなって。

マカベ ……。

アカネ あ、マネージャーは辞めないよ！絶対！！

マカベ、スケッチブックを見せる

アカネ ナナちゃん。

マカベ ……ナミダナ ナナちゃんの涙袋が膨れているの

は、いっぱい我慢しているからです。

アカネ ……？

マカベ そこには、闇、とか、悲しみとか、痛みとか、色
んなものが溜まっていて、ナナちゃんはそれを出
すことができない。

アカネ え、可哀想……。

マカベ ナナちゃんの涙袋は膨れていくばかり。でもある
日、ナナちゃんは見つけました。楽しいこと、や
りたいこと、好きなこと。すると、どうでしょ
う。ナナちゃんの涙袋から嫌なもの全部流れま
した。

アカネ あ、可愛い。

マカベ ……僕は、アカネさんにもこうなって欲しい。

アカネ ……。

マカベ あ、すみません……！

アカネ ……ううん、ありがとう。ごめんね、気を遣わせ
ちゃって。

マカベ あ、いえ、

アカネ 航くんもありがとうね。

航 あ、いや、僕は

アカネ もっと、ちゃんと考えてみる！

航 ……。

アカネ あ、キックさん、呼んでるんだよね？行かない
や！

マカベ あ、そうでしたね。

アカネ いこう！

アカネ、マカベ、出ていく

航は二人を眺める

体育館屋上

キックとシュン、レン、カルロスが出てくる
アカネとマカベが遅れてやってくる

皆が空を見ている

キック どうだ。

カル 最高ですね！

レン ここ入れたんすね。

シュン 見つかったらやばいけどね。

レン どうやばいんすか？
シュン 多分、部停。

レンとカルロス、逃げようとする

キツク (二人を制止して) 共犯だよ。
レン 俺知らないっすよ。
カル 今、ギリギリなんですよ。
シュン まあまあまあ、多分大丈夫だよ。
航 多分……。

キツク これが、明飛中学校男子バレーボール部名物、体育館屋上！

レン そのままじゃないすか。
シュン 俺達も去年、先輩達に連れられてさ。
カル まあ、これは波武じゃ見れないですね。
キツク いいだろ。
レン まあ、はい。
キツク 航とマカベは？
航 良いですね。。
マカベ 綺麗。(絵を描いている)

キツク おん。
アカネ あの、ベッキー先輩は？
シュン 帰ったよ。
アカネ ええー！
キツク あいつのことは、いいんだよ。
アカネ ……。
シュン 懐かしいなあ。去年のこと思い出すよね。
キツク 暗黒時代な。
航 暗黒時代？

シュン 去年、俺たちの代が一人もいなくてさ、先輩が他の部活で引き抜きを始めたんだよ。
キツク で、俺たちが来たってわけ。
シュン バレー部暗黒時代の時に引っこ抜かれたから、俺たちは暗黒の世代なんだよね。

レン それを言うと、俺もっすか？
シュン まあ、年は違うけど。去年一緒だからね。
カル じゃあ、僕も。

キツク お前、何、自分も暗黒になろうとしてんだよ。
カル いや、カッコいいじゃないですか。
レン 今年も引っこ抜きあったすもんね。
シュン じゃあ、今年も暗黒だね。

アカネ なんか雑になってませんか？
航 僕も暗黒の世代ですか！？
マカベ 僕も！？

アカネ ええー……？
シュン みんな、暗黒になりたいんだね。
キツク ま、その方がカッコいいよな。

静寂

シュン 去年は大変だったね。
キツク 結局、大会出れなかったからな。
航 え、出れなかったんすか？
キツク ああ。
航 そうなんですな……。

キツク だからさ、みんな入ってきてくれてありがとうな。

全員 ……。

グラウンド

ベッキー、呻きながらぎこちない動きでサーブ、レシーブトス

手や腕にはテーピングやがて、崩れる

ベッキ アア……くっそ……！

他の部員達が現れる

アカネが真っ先に近寄る

アカネ ベッキー先輩！

ベッキ ダメだ……アアッ……！！

キック 何だよ、上手くなるんじゃないのかよ！

アカネ キックさん！

ベッキ キック、もう少しなんだ……もう少しなんだよ……！！

航 ベッキー先輩……

レン ベッパイ……

マカベ ベッキーさん……

カル ……。

ベッキ もう少しなのに、身体がテニスを求めてんだよ……。

キック お前ここに来てテニスカよ！

シュン キック！

ベッキ 俺だってバレーやりてえよ！ だけど、バレーの身体でやろうとすると、ぎこちなくなんだよ……！！

キック ……。

ベッキ どうすりゃいいんだよ……！！

沈黙

カル あの、すみません、思い切ってテニスでやってみてはどうですか……。

ベッキ カルロス？

カル テニスの身体でバレーをやるんです。そしたらベ

ッキー先輩にかかっている呪縛も取れると思います。僕はテニス詳しくありませんが、例えば、サーブ。テニスのサーブと同じように打ってみてください。

カルロス、カゴからボールを取り出し、ベッキーに渡す

ベッキ ……。

ベッキ ……。

ベッキ、テニスのフォームでボールを弾ませ、トスを上げる

ベッキ (勢いよく打ち込み) ポウッ！！

ベッキーのサーブはネット際の綺麗でシャープなサーブになる

間

キック 速え……！！

ベッキ ……。

シュン ベッキー？

ベッキ ……キック、シュン、みんな、俺分かったよ。バレーとテニスは同じだったんだ……。

間

レン いや、さすがに

アカネ (食い気味に) ベツキー先輩! 凄いです!!

ベッキ キック! 俺にワンマンしてくれ!

キック お、おう!

ベツキー、テニスラケットを構える形でボールを待つ

キック、ベツキーにボールを出す

ベツキー、腕をラケットのようにながら返していく

ワンマンは続く

シュン すごい……!

航 続いている……

レン なんでえ?

マカベ かつこいい……!

カル テニスとバレーがこんなにもハマるなんて……

キック、ボールを取り、ベツキーと握手する

ベッキ ……待たせたね、みんな。

間

レン いや、別に待ってない

アカネ (食い気味に拍手)

みんなも続けて拍手する

キック カロス!

カル 何ですか?

キック 俺も強くなりたい!

カル え?

シュン カロス、最高だよ。ほんとどうしたらいいか分

かんなかったもん。

カル あ、ありがとうございます。

キック 俺らももっと強くなりてえよな! な!!

カルロス、サングラスをつける

カル 強くなりたいか?

シュン カロスモードだ!

航 カロスモード。

カル これからお前達に教えるのはカルロスメソッド。

レン カロスメソッド?

キック メソッドって、なんそれ?

アカネ 方法。方式。

キック ……ほう?

シュン 具体的には何をやるの?

お前たちには自分のポジションへの理解と、得意

なところを伸ばしてもらおう。

あー、俺だったらセッターとか?

そうだ、レンはセッター、マカベはブロッカー、

キックさんはリベロ。三人は分かりやすいな。

でも俺、リベロ誰かに変わりたいと思ってんだよ

な。

カル 守護神。

キック え？

カル リベロは、又の名をそう呼ぶ。部長でありキャプテンでもあるキックさんにしかできないポジショんだと思います。

キック ……：おお、守護神！（ベッキーに）守護神！！

ベッキ 何で俺に言うの？

カル レンはセッターとしての状況把握、トスの強化。マカベはブロッカーとしての立ち回り、ブロッカー強化。キックさんはリベロとしてレシーブ強化、反射神経のトレーニング。シュンさんはレシーブトスは良いのでアタックを強化。ベッキーさんはレシーブトスアタックをテニスとして身体になじませる。

航 あの、僕は……？

カル 航は、サーブの強化。君のサーブにはまだ迷いがある。

航 迷い。

レン ……。

カル （航の胸を触り）呪縛。

航 ……。

キック （胸に手を当て）これが、カルロスリゾット。

アカネ メソッド。

キック ……！！？

シュン おー！ よし！ みんな、とりあえずやるべきことが分かったね！

ベッキ 自分のやるべきことは分かったけど、チームとしてはどうすんだよ。

カル 目指すべきは、全員バレー。ローテーション、ア

タックフオロー、ブロッカーフオロー。バレーはボールを触らないときの動きが肝心だ。そうか、だからあんなにボコボコ打たれてたわけだ。

ベッキ

そんなの考えたことなかったよ。

シュン 大会までの残り期間、俺が知っている全てを叩き込む。ついてこい。

カル

それぞれが返事をする

キック てかさ、カルロスはどうすんだよ。

カル 俺はサーブとアタックの強化にあたる。

キック お前がアタック打つの？

カル え、ダメですか？

アカネ あの！

カル んん、何だ？

アカネ 私は何をしましょうか？

カル ……みんなにスポドリを作って欲しい。

アカネ 何を作りましょうか？

カル ……アミノバイタル。

沈黙

キック てめえ、それは許せねえぞ！（カルロスのサングラスを取る）

カル

あ、返してください！

キック ポカリに決まってるんだろ！

シュン いやいや、アクエリでしょ！

ベッキ DAKARAだよー

レン ゲータレード。

何故かみんなでカルロスのサングラスを取り合う

カル アミノバイタルがアスリートには良いんですよ！
キック 知らねえよ、そんなこと！
アカネ 皆さんやめてください！ エネルゲンにしますよ！

急に静かになる

シュン 走って、決めよう！
キック またそのパターンかよ！
シュン 外周はトレーニングに効果的だよ！ ね、カルロス。

カル あ、はい。
シュン 外周3周して、一番速かった人がスポドリを決められるということだ！

レン でも、またエネルゲンになりますよ。

シュン アカネちゃんには1周遅れて走ってもらおうか。

アカネ ええー、なんでですか。

シュン この前、速かったからね。

アカネ 皆さんが遅いんですよ！

航 ごめんなさい。

アカネ あ、ごめん……。

航 ……。

シュン じゃあ、行くよ！ よーいドン！！

シュンが早々に走り始める

他の部員達もそれに追いかけていく

キック てめ、また一人で！

レン 今日は絶対ゲータレードに決まりですね！

キック ゲータレードって何だよ！

ベッキ もう俺に怖いものはない！ DAKARA-

カル 走り方に品がないな。

マカベ あ、あ……

航 あ、待ってください！

アカネ 皆さん、はじめから全力でいかないでください。後でバテますよー。

部員たちは走っていく

アカネ よし。

アカネも走り去っていく

現代

航の部屋

航は、横になりスマホをいじる

灰が降ってくる

航

『いつ演劇を辞めようか、舞台を降りようか悩んでいる。腐っても今ここまで続けてきて、何一つ秀でていない。人の気持ちも分かっていない。演劇に対する情熱などあるのかやる気はあるのか、多分ないんだと思う。あつたらとつくに上手く飛び立ってる。先の見えない世の中に現実を突きつけられて幻滅している。未来はあるのか。不安定』

だ。余裕がない。自分は弱い人間だ。僕は何一つ変わっていない。変わりたい。もう、やる気が出ない。早く寝ないと、明日も仕事だ。駄目だ。腐ってる。僕は根っこから腐ってる。』

灰が航に積もる

キック 航ー、立てよ！

シュン 航くん、まだまだいけるよー！

ベッキ 航、いけんだろ！

レン 航ー！

マカベ 航くん。

カル 航！

アカネ 航くーん！ 頑張つてー！

航 『飛びたい。』

航、ゆっくりと立ち上がる

部員達、モップを持ってきて、灰を拭き始める

キック インターチェンジ！！

シュン 出たー！

ベッキ おま、散ってるって！

レン あ、じゃ俺のも！

カル ちよっと皆さん、ちゃんと並んでください！

航とマカベをその様子を眺めながら残った灰を箒で集めていたりしている

キック おい、こぼれたらフォローしろよ！

ベッキ まず、こぼすなよ！

シュン キックの必殺技でたね！

レン インターチェンジ？

シュン うん！

レン だっせ！！

キック うっせえな！ インターチェンジすんぞ！

レン わ。(よける)

カル あ、ちよ、やめてください！

アカネ、走ってやってくる

アカネ 皆さん！

全員 ……！！？

アカネ 地区予選、トーナメント表、出ました……。

キック え、どこ？

アカネ 第一試合、明飛中学校 対 波武中学校。

部員達、雄叫びを上げる

彼らは波武と当たったことに悲観していない

「釣り合宿ダイジェストく打倒、波武く」

合宿での練習の風景をダイジェストで見せていく

歩きレシーブ練習

キックがサボって、皆のレシーブにいちやもんをつける

キック対全員のワンマンが始まる

シュン、ベッキーはイグアナ

レンとカルロスは、航とマカベに基本動作やローテーションについて実践して教えている
キックが縄跳びで部員のお尻を叩く
アカネに縄跳びを取られ、キックもイグアナへ
キックのお尻ばかり叩かれ、キックは喜ぶ

アタック練習

シュンとベッキーがレフトとライトに分かれて、アタックを打っている

レンがトスを上げている

マカベはブロック練

航とキック、カルロスはフォローの位置確認

アカネは球拾い

カルロスが打ちたいと名乗り上げる

センターからアタック

予想以上に良く、皆が誉める

砂浜

キックとカルロスは相撲を取っている

ベッキーが行司をしている

レンが釣りをしており、他の皆はその様子を見ている

レンの竿に魚がヒット

タモが無いので、助けを呼ぶ

カルロス、キック、ベッキーが海に飛び込む

他の皆もそれに続く

イルカ達と並んで泳ぐ部員達

沖へ向かう

地区予選当日

大会アナウンス

「選手入場。」

アカネが『明飛』と描かれたプラカードを持っている

キックは他チームにガン飛ばしている

シュンは子供と手を繋ぎながら入場するサッカーの入場を妄想している

ベッキーは白い帽子にラケットを肩にかけている

レンは終始ニヤニヤしている

航は部員達と他チームをきよろきよろ見ており、落ち着きがない

マカベはスケッチブックを持ち、緊張した面持ち

カルロスはサングラスをかけ、ブラジルの国旗をマントのようにかけている

「先頭は昨年度優勝の波武中学校。 鷹西 勉（がんだい つとむ）以下三十八名の選手です。

続きまして、日葵ヶ丘（ひまりがおか）中学校。 美嶋 卓（みしま すぐる）以下十四名の選手です。

続きまして、坪葦（つぼすみ）中学校。 梅林 陸也（ばいり んりくや）以下十一名の選手です。

続きまして、葦（あし）中学校。 細川 明（ほそかわ めい）以下十七名の選手です。

続きまして、蓮華学業院（れんかかがくぎょういん）中学校。丈重幸（じょうしげゆき）以下十名の選手です。

続きまして、茅ノ郷（かやのごう）中学校。広出道隆（ひろでみちたか）以下二十三名の選手です。

続きまして、明飛（めいひ）中学校。菊地 祐馬（きくちゆうま）以下六名の選手です。」

「選手宣誓を行います。選手宣誓は昨年度優勝の波武中学校、鴈西 勉キャプテンが行います。各校のキャプテンは前へ整列してください。」

キックはよく分らず前へ出る

各学校が一行に整列し、波武中学校キャプテンによる選手宣誓

それを睨む明飛中学校男子バレーボール部

鴈西 勉（声）「宣誓。われわれ選手一同は、仲間ともに、

これまでの厳しい練習の成果を發揮し、日ごろご指導くださっているコーチや、支え

てくれている家族に感謝し、最後のボールが落ちるまで、正々堂々と、全力で戦うこ

とを誓います。波武中学校キャプテン 鴈西

勉（がんざい つとむ）。」

「以上を持ちまして、開会式を終了します。選手退場。」

地区大会予選第一試合 明飛中学校 対 波武中学校

部員たちはアウトラインに整列するベンチには、旗持ちのアカネ

キック いっけー、いけいけいけいけ、明飛

他 いっけー、いけいけいけいけ、明飛

キック おっせー、おせおせおせおせ、明飛

他 おっせー、おせおせおせおせ、明飛

キック 明飛

他 ミント

キック ミント

他 明飛

明飛とミントをしばらく言い合う

キック よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ

他 ヨイヨイヨイヨイヨイヨイヨイヨイヨイ……

キック だー！！

全員 しゃーー！！

ホイッスル

全員 おねがしやーす。

波武側と握手をし、円陣を組む

キック 明飛ちゅうがっこー、ウェイ！！

全員 おー！！！！

第1セット

皆が皆、コート内で呼応し合っている
アカネとキックはベンチで応援している
航もなんとかついてきている

航 『みんな、あのときの練習試合とは違う。確実に、
それぞれがそれぞれの役割を理解し、ただ、バレ
ーに没頭している。』

第1セットを明飛中学が先取る

インターバル

キック よっしゃあ！ いいぞいいぞ！
ベッキ 全部相手に刺さってたな！
シュン このままいこう！ このままいこう！
レナ なめたけ、合わせてきますんで！ こっちもガラッ
と変えましょう！ 次はカルロス中心にトス上げて
いきやす！
カルロス わかった！
アカネ スポドリいっぱい作ったんで、水分、しっかり摂
って下さい！
キック 次で決めるぞ！
全員 おー！！

第2セット

健闘しているが、段々劣勢となっていく

航の調子が芳しくない

ベンチ内

キック あいつら、この短時間で合わせてきてやがる
アカネ マカベくんのブロック完全に見られてますね…
…。

キック やっぱ上手えなあいつら……。

コート内

航のレシーブミスが目立つ

航、少しよたつく

シュン 航くん、大丈夫？

航 すみません。

シュン ちよつと、リベロつけよっか。

ベッキ 次、前出たときに活躍してもらわないとな。

航 はい……。

シュン キック！ 航くんのリベロついてくれ！！

キック よっしゃあ！ 任せろー！！ 流れ変えんぞ！

キック、コートイン

しかし、健闘むなしく波武に第2セットを取られる

航

『悪くない流れだった。少し踏み込めばセットが取
れるかもしれないところを、そこは波武が一枚上
手だった。僕たちが築き上げたものはもの数分

で攻略された。』

キツク どんまいどんまい！次、次！

シュン、足を引きずっている

アカネ シュンさん！

シュン ごめん、攀ったかも……。

キツク おい、大丈夫かよ。

カル 上にゆっくり伸ばした方がいいですね。

ベツキ こうか？（シュンの脚を上にあげる）

レン シュンさん、どうすか？

シュン ……ごめん、次ははじめから行けそうにないかも。

ベツキ どうする？

キツク シュンがバックのとき俺がリベロつくわ。航、レ

航 シーブ行けるか？

航 あ、はい、行けます！

シュン ごめん、よろしくね……

航 大丈夫です！

シュン うん。

シュンの攀った脚が少しマシになる

ベツキー、シュンから合図され、水分補給に向かう

カルロス、シュンにスポドリを渡す

キツク よっしゃあ、次次、いけっぞ！

ベツキ おっしゃあ！

レン トス、ブレてたんで次立て直します！

カル 次、絶対決めます！

ベツキ こっからだよ、こっから。

シュン そうそう、いい線いってんだから！

マカベ あの、僕、後ろもサポートした方が良いですか

ね。

シュン マカベくんは、ブロックに集中して。

キツク 全部止めちゃえよ！

マカベ あ、はい！！

アカネ （壺を持っている）あ、あの、皆さん、水分も良

いですけど、汗漉いんで。実家の梅干し持って

きたんで、これ食べてください！！

●キツク おお！

●ベツキ 気が利くな。

●レン ご飯ないですか？

●カル ジャパン！

●マカベ あ、ありがとうございます！

●航 ありがとうございます……

全員、梅干しを食べて、非常に酸っぱい顔をする

アカネ あー……なんか、ごめんなさい……

シュン ……。

キツク ……よおーし、みんなあー……いくぞおー……！

全員 ……おおー！！

第3セット

先程よりラリーが長く続くようになる

シュン キツク！

途中でシュンが復帰してキックと代わる
キックとシュン、手を叩く

航 『どっちが勝つか分からない流れになってきた。心
なしに僕らの試合を見ている人が多くなってきた
気がする。あの強豪校である波武中学校に無名中
学が一矢報いるのだ。』

得点がデュースになる
サーブ権は明飛中学校
サーブは航

航 『デュース。マッチポイントまであと少し。最悪
だ。回ってきてほしくないときに回ってきた。自
分のサーブで試合が決まるようなものだ。強い視
線を感じる。ここは、ここだけは決めたい。決め
たい。絶対、決める。決める。』

航がサーブ練習をしているときがよぎる

航 あの、レンさん……
レン 何？

航 僕が、小学校五年生の時の大会のこと覚えてます？
レン え、いつの時だっけ？

航 ジュニアリーグです。
レン ジュニア？ あー、あれね、最後のセットの。

航 はい……。
レン 気にすんなって。

航 でも僕……

レン 誰も気にしてないって。

航 そうなんですけど……

レン 誰も責めたりしていないし。

航 ……。

レン 航のせいじゃないからさ。

航 でも、レンさんは、覚えてましたね……

レン ……。

航 『小学校五年、ジュニアリーグ。僕は最終セットで
サーブミスをした。僕がサーブをミスしなかった
ら、勝ってた試合だった。今このときもそうだ。こ
こでサーブミスをして相手に流れを作ってしまった
い、試合は終わる。あんなにバレーが好きだった
みんなとの日々は終わる。頼む、入ってくれ。』

航、サーブを打つ

サーブはネットにかかる

航 『人は、そう簡単には変わらない。夢を見ていた。
そんな容易いことではなかった。分かっている。
分かっているけど、』

航 夢くらい見せてくれたっていいじゃないか……。

航、呆然と立っている

キック どんまいどんまい！

シュン 大丈夫！ 一点すぐ取り返そう！

ベッキ 気にすんな、航！

レン 次しっかりいきやしょう！
カル 繋ごう繋ごう！

相手のサーブから、1点をなんとか取ろうと繋ぐが、
今一步届かず、1点を取られる

ゲームセット

明飛中学校一回戦敗退

航 『明飛中学校男子バレーボール部の一年が終わつ

た。戦いは幕を閉じ、キックさんとシュンさん、
ベッキーさんは引退する。あつという間だ。あつ
という間に、終わってしまう。そして僕も。』

体育館

航のもとに部員達が集まっている

キック え？

航 ……あの、なので、バレー部、辞めようと思つて
います。これから担任の先生に退部届渡しに行こ
うと思つて…：…今までありがとうございました
…：…

キック ちよつと待てよ。部に十分に貢献できなかったか
ら辞めるって、もう一年、二年、頑張ればいいじ
やねえか。

航 あの、でも、このまま続けても変わらないと思う
んで…：…

キック やつてみなきや分かんねえよ。

キック、ボールを取りに行き、高く上げる

キック ほら、航！アタック打ってみろって！飛んでみ
ろ！これは俺の勘だけど、お前、次はアタッカー
がいいんじゃないか？

シュン キック…：…
ベッキ おい、キック。

航、アタックを打つ

キック いいじゃねえか、な！マカベ、お前ブロック入
れ！

マカベ は、はい…：…！

キック ほら、飛べ！航！

航、アタックを打つ

マカベ、ブロックを入れるに入れない

キック おー！いいじゃん！な！レン、トスあげてやれ
よ！

レン いや…：…

キック じゃあ、カルロス、トスあげてくれ！

カル あ、いや…：…

キック 何だよお前ら…：…

キック 航、バックアタックできるか？航バックだから、
Wバック、ウイングバックだな！

キック、ボールを上げる

航は、飛べない

キツク 航？

シユン キツク。

キツク なんだよ。

シユン もう、やめろよ。

キツク は？ 悔しくねえのかよ！ 波武との一戦でここま

で悟られてさ、一年がここで辞めますって、お前
嫌じゃねえのかよ！

シユン それは、嫌だけど、俺も辞めて欲しくないけど。

キツク だったら、お前も引き止めろよ！

シユン 止めれないって。

キツク なんでだよ！

シユン 航くんはもうさ、楽しくないんだよ。

キツク は？

シユン できないよ。

キツク ……。

航 ……ごめんなさい……。

沈黙

航 ごめんなさい……。

航、去っていく

長い静寂

キツク ……。

シユン あ、みんな、アタック練からする？ それともサー

ブ……

キツク おい、待てよ。

シユン 何？

キツク お前悲しくないのかよ。

シユン え？

キツク 航が辞めて、何すぐに切り替えようとしてんだ
よ。

シユン だって、しょうがないじゃん。航くんが楽しくな

いのが、俺が一番嫌だし。

キツク さっきからさ、何だよ楽しい楽しいって！

キツク、シユンを押し倒そうとする

ベツキ おい、キツク！ やめろって！

キツク テニス部は黙ってるよ！

ベツキ あ？

キツク お前もなんとも思っていないんだろ。良いよな兼部

は。俺たちは大会終わったけど、お前にはテニス
が残ってんだよな。

ベツキ はあ？

キツク ベンチで見てたけど、お前だけ本気出してなかつ

たからな！

ベツキ ふざけんよ！ お前に何が分かんだよ！

キツク どうせ身体も心もテニスにいったんだろ！

ベツキー、キツクの胸ぐらをつかむ

アカネ ベツキー先輩！

ベツキ お前だってリベロで何にもしてなかったじゃねえ
かよ！

キック それは関係ねえだろ！

シュン 二人が一番良くなかったから！

ベッキ お前が言うなよ！途中で脚攣りやがって！

キック そうだよ、何攣ってんだよ！

シュン 仕方ねーだろ！

キック お前がそんなんだから航が辞めんだよ！

シュン ちげーよ！

カル あの、やめてください！

キック うるせえよブラジル野郎が！

ベッキ てめ、カルロスにあたんなよ！

キック、シュン、ベッキ、カルロスは揉み合いになる

アカネとマカベは止めようとするが、四人は聞く耳を持たない

キック おい！レンも何か言ってやれよ！

レン 俺は、

全員 ……？

レン 俺は、航が、バレーが好きなんだと勝手に思ってしまった。勝手に……。

長い沈黙

マカベ あの……

マカベ このタイミングで言う事じゃないと思うんですけど……僕も来月で辞めます……。

アカネ マカベくん。

キック え？

マカベ 親の転勤が決まってて、転校しなきゃいけない

て、でも大会終わってから言おうと思ってる。

全員 ……。

マカベ あの、皆さんとバレーできて良かったです。短い

間でしたが、ありがとうございます。あの、な
んで、喧嘩しないで下さい。僕、ここで、嫌な想
い出で終わりたいくないです。

沈黙

キック ……。

シュン ……。

マカベ あの、凄く、楽しかったです。皆さんありがとうございます。
ごさいました。

静寂

キック なんか、急に、みんな遠くに行っちゃいな。

ベッキ ……。

キック 卒業したくねえな……。

ベッキ ……まだ早えんだよ！（キックを叩く）

キック は、何だよお前！

シュン キックは受験が怪しいからねー。

キック あーあーやだよ！

沈黙

シュン ……また部員探しからだね。

レン ……。

嫌いじゃないですけど、続けてやりたくはないなって思ってしまった。あ、小学校五年生の時に、あの、見たんです。演劇。そしたら、なんか舞台の上にいる人たちが違う世界を生きてるみたいで、すごい羨ましくて。かっこよくて。僕、それに引っぱられてたんじゃないかなって。やっぱりそっちじゃないのかなって。バレー部辞めて、美術部入ろうと思ってる。小学生の時から切り絵も好きで、中学は切り絵とかやろうかなって。アカネさんいるし。あ、アカネさん、好きでした。けど、どこか行っちゃいましたね。そういう先輩でしたし、そういうところが僕は好きでした。皆さんもどこか行ってしまいたね。それはしょうがないなって思ってたんですけど。……あの、高校は絶対演劇部に入ろうと思ってる。あの、めちゃくちゃ成績悪かったですけど、頑張って演劇ができる高校入って、めちゃくちゃやりたかった演劇始めて。めちゃくちゃ楽しくて。でも、ずっと追いかけてた、演劇も、なんだか楽しめなくなってきた。やりたかったことなのになんてだろうって。なんか僕、自分が、分かんなくなってる……。ほんと自分でもやばいなと思うんですけど、もう、ここじゃ、嘘つけないですよ。

沈黙

皆さん、今、どこにいますか。何してますか。あのときから皆さんとの時間、止まってるんですよ。でも、あまり知りたいとは思わないですよ。なんでだろう……。

航 ごめんなさい……本当に、ごめんなさい……。

航 ごめんなさい……

ボールが落ちてくる

航 ……。

過去の部員たちは消えていく

航はボールを拾う

教師（レン）が入ってくる

レン あ、やっぱここだ。

航 あ……。

航 ごめん、遅くなった。

航 いえ……

航 お、ボール上がったの？

航 あ、はい。

航 どっから上がったんかな。

航 ……落ちそうだったんで。

航 そっか、ありがとな。

航 長い沈黙

航 今日、来て良かったです。

航 レン そ、参考になった？

航 はい、すごく。
レン 良かったわ。

航 レンさん、ここで働いてたんすね。
レン えん。俺はここじゃないと希望してたんだけどな。

航 そうなんすね。

レン 今はさ、担任と進路担当に、バレー部顧問だよ。

航 きついつすね。

レン でも、この進学率、結構いいんだぜ。

航 さすがです。

レン よせよ。

航 みんなは今、何やってんすか？

レン 俺もさ、よく分かんないんだよね。

航 ああ……

レン なんか、そういうもんだよな。

航 まあ、そうっすよね。

レン アカネはさ、結婚したらしいよ。

航 ……

レン 相手は、高校の陸上部の先輩だって。年賀状来て

さ。そっか、良かったです……。

航 そっか、良かったの？

レン はい。

航 そっか。

レン

長い沈黙

航 ワンマンやるか！

航 え？

レン ここから落とすなよ！

航 あ、はい！

実際のボールでワンマンを始める二人

レン おい、やっぱ鈍ってんな。

航 十年ぐらいやってないんで。

レン まあ、そうだよな。

ワンマンは続いていく

レン お、慣れてきた。

航 はい。

航 はい……。

航、泣き始める

レン え、おい、航。何、ワンマン嫌だった？ ごめん！

航 嫌じゃないです。

レン おお……

航 嫌じゃないです……

レン お、おおん。

航 ごめんなさい。

レン え？

あのときサーブ外しちゃってごめんなさい。一人だけバレーに夢中になれなくてごめんなさい。僕が、僕が、悪いんです。ごめんなさい。レンさん、ごめんなさい……。

静寂

レン おい。

航 はい。

レン 何言ってるんだよ。

航 え？

レン もう、そんなの気にしてねえよ。

航 ……。

レン 若かったんだし。

航 そう、っすね……

レン 気にすんなって。

航 ……。

レン ほら。

レン、航にボールを出し、ラリーを始める

レン みんな、航とマカベが辞めて残念がってたけど、そ

のあとは結構楽しくやってたんだぜ。

航 そうなんすね……

レン まあ、次の代のエースとホープが消えたのはかなり

悔しかったけどな。

航 ごめんなさい。

レン いいんだって。

航 ……皆さん、元気だったらいいんすけど。

レン 元気だろ、きつと。

航 そう、ですよね。

レン えん。

航 ですよね……。

レン 俺もさ、航が元気で良かったよ。

航 ああ、ありがとうございます。

レン 演劇の道も大変だろうしき。頑張ってるな。

航 あ、頑張り、ます。
レン おう。

航、ボールを持つ

間

航 辞めたくて。

レン ん？

航 演劇、辞めたくて、なんかここに来たくなつたんで
すよね。

レン そつか……。

航 はい。

レン 続けてるだけですげーよ。

航 ……。

レン 俺はバレー辞めたしな。続けてるだけで才能なんだ
よ。

航 ……。

レン すげーんだよ、航は。

航 そう、ですか？

レン そう、だよ。

航 ……。

航、再びボールを出す

レン いつまでこっちいんの？

航 来週まで。

レン バレー部、顔出してくれよ。OBとして。

航 でも僕、途中で退部しましたよ。

レン それでもいいじゃん。

航 でも、
レン 見てくれよ、今のチーム。
航 ……はい。
レン めっちゃ強いからな。カルロスメソッド取り入れて
っから。
航 カルロスメソッド笑
レン えん。あいつ、何だったんだろうな。
航 いや、今思うと、皆んなやばかったつすよ。
レン そうだよな。何やってたんだろなほんと。
航 はい。
レン 変な格好で行進してて。
航 はい。
レン 何なんだろうな。
航 レンさん、行進中ずっとニヤニヤしてましたよね。
レン え、してた？
航 はい。
レン 覚えてるもんだな。
航 覚えてますね。

二人は中学生の頃の話をしながらラリーを続けていく

夕日が、体育館屋上を照らす

終